

ロシアが全面戦争から世界を救っている

【訳者注】これは、「アメリカ：どうしたら忠告を聞いてもらえるのか？」の続編としても読める。沢山のこうした問題を論ずる人たちが、基本的に同じ主張をし、同じように世界を見ているということは、我々に自信を与えてくれる。それは米政府の宣伝とそれを伝えるだけの主流メディアとは、正反対の世界の見方である。宣伝では、「ロシアさえ滅ぼせば世界は救われる」と言っている。

この論文は、基本的な構図を押さえ、明快に論じていて、世界の現況を知るための“小バイブル”と言ってもよいと思う。まず、メディア宣伝とは逆のロシア観。「ロシアが世界を救っている？ 馬鹿な！」と言う人は、偏見を捨ててよく読んでみるがよい。また米政府の基本的対外政策としての“ウォルフォウィッツ主義”の説明。これは **American Exceptionalism** (アメリカ例外主義) にも直結し、それはまた、アメリカ人が原住民を滅ぼすことを正当化した **Manifest Destiny** にもつながる (解説省略)。

我々は無条件に、アメリカの世界支配に反対するのではない。もしアメリカが、他国の及ばぬ高い道徳性を世界に及ぼすというのなら、我々は喜んで彼らに従う。それをさえ奴隷根性と言うなら、それを言う方が奴隷であろう。しかし今のアメリカの戦争・破壊屋は、意図的に道徳をも破壊しようとする者たちである。

米露の間で、まさかと思われる、無謀の一線が越えられるのだろうか？ 彼らのケタ外れの非常識から考えれば、それは越えられると想定しなければならないだろう。

Finian Cunningham

May 16, 2016, Information Clearing House

今週、アメリカが、ミサイル装置をヨーロッパ東部に配備したことは、全面的地球戦争への更なる一歩である。ロシアを悪魔化する西側のプロパガンダにもかかわらず、本当は、このような大危機を防ぐために、現実に一線を守っているのは、ロシアの軍事力である。

アメリカとその NATO 同盟国は、すでにロシアと戦争を始めている。これは誇張ではない。事実である。アメリカとその同盟国は、ロシアとの国境線に兵器と軍隊を結集しており、いろんな方向から攻撃のシミュレーションを行っている。

<http://sputniknews.com/world/20160511/1039426736.html>

西側メディアにおける“戦争ゲーム”のオーウェル流の言葉が、NATO 軍がロシアに対し

て現実的な攻撃を準備しているという不穏な事実を、矮小化するのに奉仕している。

双方の戦争機械が、ともにロック・オン（レーダー追跡）状態になっている。先月のバルト海での、米戦艦が露戦闘ジェット機に対面した出来事は、ほとんど毎週起こっている、このような多くの接近事件の一つにすぎない。確かに、兵器はまだ現実に火を噴いてはいない。しかし兵器設備全体に準備態勢ができています。

ここでも西側メディアは、危険極まりない異常な状態を、普通のことのように扱う手伝いをしている。ワシントンの要請で、西側諸国は、ロシアを経済制裁によって閉じ込めようとしている。これもまた戦争挑発行為である。

http://sputniknews.com/trend/western_sanctions_against_russia_2014/

その上、ワシントンとモスクワ間の外交チャンネルは、以前の冷戦時代のどの時期よりも、沈滞した状態になっているように見える。ロシアの外相セルゲイ・ラブロフは、アメリカの同役ジョン・ケリーと、胸襟を開いた関係を維持しているように見えるが、個人的関係は別として、この2強国間の相互の立場は、かつてないほど危険になっている。

http://sputniknews.com/art_living/20160506/1039215447.html

もう一つの戦争の態度表明は、シリアとウクライナでの、アメリカの、ロシアとの代理戦争である。表面上は、停戦の話し合いや政治的解決はあるかもしれないが、ジハーディスト傭兵やネオナチ・キエフ政権は、それにもかかわらず、ロシアの地戦略的な利益を攻撃するように常に方向付けられた、米軍資産であることを忘れてはならない。

<http://sputniknews.com/middleeast/20160512/1039524941.html>

米側の長く予想されていたミサイル装置を、ヨーロッパ東部で始動させた、今週のワシントンの動きは、戦闘行為の全体的展開の中のもう一つの攻撃行動である。アメリカと NATO の高官たちは、イージス艦攻撃装置がロシアを狙っていることを否定し、これはイランの弾道ロケットや、他の“ならず者”国家からヨーロッパを守るためだ、という滑稽な主張をしているが、それは見え透いたたわごとである。

<http://sputniknews.com/politics/20160515/1039633525.html>

ロシアが、ワシントンと NATO の冷笑的な請け合いを退けるのは当然である。クレムリンは今週、アメリカのミサイル装置が設置されたことは、ロシアの安全にとって直接の脅威だと言った。モスクワは、核抑止の戦略的バランスを立て直すための対抗措置を取る、と言っている。公的なロシアの報道が、新しい超音波の大陸間弾道ミサイルの詳細を説明し、これはどんなアメリカのミサイル防御装置も突き破り、テキサス州やフランスの大きさの領域

を、破壊することができる弾頭をもつものだと言ったのは、偶然の一致ではない。

<http://sputniknews.com/russia/20160508/1039258053.html>

これは無責任なロシアの強がりではない。ロシアが攻撃的ワシントンに対して、いかなる未来の戦争の動きも、同等かそれ以上の力によって報復することを知らせるのは、絶対に必要なことである。もちろん、その結果は、我々の見知った地球を破壊するかもしれない、戦力全開の核戦争になるだろう。しかし、平和と地球を守る唯一の方法は、ロシアが、アメリカのいかなる戦力をも見下すことのできる、軍事力をもっていることを示すことである。

プーチン大統領下でのロシアの戦力アップ・グレードは、おそらく、アメリカの全面戦争への突っ走りを押しとどめる唯一の方策である。

<http://sputniknews.com/military/20160108/1032850620.html>

我々はこれに向き合おうではないか。戦争の根源になっているのはアメリカである。米政治アナリスト **Randy Martin** が指摘するように、いわゆる“ウォルフオウィッツ主義”(Wolfowitz Doctrine) は、ワシントンの対外政策の試金石である。ジョージ・W・ブッシュ政権に仕えた、元防衛省高官ポール・ウォルフオウィッツの、このネオコン・ドクトリンは、アメリカの軍事戦略思考に深く埋め込まれている。

マーティンは言う——「ウォルフオウィッツの、アメリカが世界で唯一の超大国であって、いかなるライバルにも、戦争を仕掛けるほどの力を持たせないという決意が、すべての米軍の兵学校で教えられている。それが主流の米軍の考え方である。」

これがワシントンの、ロシアや中国に対する好戦的政策を動機づけるものだ、とマーティンは付け加える。「アメリカは、その不法な世界制覇の野心を維持するためには、ライバルの地球的強国と見たものに対しては、戦争を仕掛けるようにプログラムされている。」

このアナリストは、もしロシアと中国の軍事力がなかったら、アメリカの国家計画者たちは、彼らの戦争行動を更に進め、今頃は、世界に破局的な結果をもたらしていただろう、と言っている。西側メディアによる、あらゆるロシア誹謗にもかかわらず、このような破局的な戦争——アメリカだけが押し進める戦争——から世界を救っているのは、ロシアだという考えは、頭を冷やしてくれるだろう。

実際、ここで主張されていることは、ロシアのシリアへの介入は、一つには、このより大きな、遙かにより深刻な計算に基づいていただろう、ということである。ロシアは、この中東の国家を、西側の援助する政権転覆のための戦争から救助しただけではない。モスクワが、

海から発射する巡航ミサイルや、S-400 対弾道弾防衛など、最新の兵器類を公開してみせたのは、ワシントンに対して、これ以上の戦争計画を追及するのは考え直した方がよいという、通告の狙いがあった可能性がある。

<http://sputniknews.com/military/20160421/1038396522.html>

我々がそのことをほとんど知らないのは、あまりにも多くの西側の、思考を麻痺させる誤情報のためである。しかし我々の世界は、いま核戦争の深淵をのぞき込んでいる。ロシアの軍事力がこの深淵からの一線を守っている。

そのふちから転がり落ちる前に、この深淵のような状況を、どうやって克服できるだろうか？

ロシアは絶えず警戒し、強力な、降伏しない決意を持っていなければならない。先週の、ナチス・ドイツに対する戦勝記念日は、ロシアが国際的な侵略を敗退させた記念碑的な重要性を、思い出させる日である。その同じファシズムの侵略が、アメリカの覇権的野心という形で、再び猛威を振るっている。そして第三帝国の場合と同じく、世界を全面戦争から保護しているのはロシアの剛毅である。

<http://sputniknews.com/us/20160509/1039337063.html>

政治アナリスト、ランディ・マーティンは、アメリカの民衆が、現実的に決定的な役割を果たしているとは見ていない。理論的には、アメリカ市民は、彼らの戦争屋リーダーたちの責任を問い、民主的な政府を選ぶ必要がある——変化を求めて。しかし、とマーティンは言う、アメリカの大衆はあまりにも自由を奪われ、洗脳され、押しひしがれ、貧困と消費者精神異常にはまり込んでいて、どうしたら、ワシントンの戦争屋エリートを廃止するために、大衆運動をアメリカで、この歴史的な時点で、動員できるか方法が見あたらないという。

多分、決定的な行動を取れるのは、ヨーロッパの人々であろう。アメリカの、侵略とロシア制裁の路線に従う、ヨーロッパのリーダーたちに対する、高まる民衆の不満が、米 - EU - NATO の戦線を決定的に打ち破る潜在力をもつかもしい。

人々がいま緊急に目覚めなければならないことは、ワシントンと、そのヨーロッパの従僕政治家たちが、すでにロシアに対し戦争を始めているという事実である。この破壊の力学を客観的に正当化できるものは、絶対に何もない。あるのは、その世界支配を一方向的に主張するアメリカだけである。それは法律を中心とする民主国家の政策ではない——それはナチス・ドイツと同じ性質をもつファシスト強大国である。

ロシアに対する戦争は、ロシアの（クリミア）併合とか、侵略とか、拡大主義といった、全く怪しげな根拠に基づいて行われている。これは完全にプロパガンダである——やはりこれもナチス・ドイツ式の。

肝心の問題はこうである——ロシアは、アメリカに率いられた侵略に十分に長く持ちこたえて、世界の人々が、ワシントンに発し、ヨーロッパの各首都を經由して機能する、犯罪的な政権を引き倒す政治行動を動員するまで、頑張り切れるだろうか？